



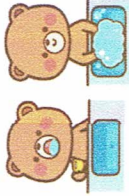
# SNSCだより



2022年1月  
NO.428

1月17日

新型コロナウイルス警戒中



部員	100名	新入会
U12	32名	
U11	13名	
U10	14名	
U9	19名	樽田三緒里 (タルタサオリ)
U8	12名	多井畑小
U7	10名	



1. 17

27年前、みんなが練習している落合中央公園多目的グラウンドには、  
たくさんの方がたっています。

須磨ナイスの選手たちの練習する場所は、なくなりました。  
どうしてか知っていますか。

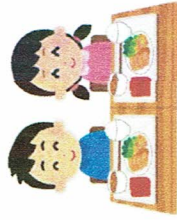
1995年1月17日午前5時46分、みんなの住む神戸に大きな地震が発生しました。  
6434人の命が亡くなり、たくさんの方の家が失われました。

住む家がなくなったり人のために仮設住宅が、神戸市内のあちこちの公園にたったのです。  
その1か所が落合中央公園多目的グラウンドに選ばれました。

グラウンドに向けて「ありがとうございます」と練習終わりにあいさつをします。  
グラウンドが使えることが当たり前ではなく、感謝の気持ちをもって使わせてもらうこと。  
その他にもユニフォームを買ってもらったり、会場まで送ってもらったり、おにぎりを作っ  
てもらったりという“ふつう”にやってもらっていることに  
“ありがたい”の気持ちを確かめる日。たくさんの方から私たちが学びます。



監督 有持 哲治



新年を迎え、いろいろなことをスタートさせる選手もいることでしょう。  
Jリーグも、新シーズンに向けて各クラブチームが始動しています。

そのJリーグのとあるクラブチームのコーチの話です。

「昇格を機に監督を交代し、新シーズンを迎えたとしても、既存の選手たちの意識  
が変わらなければ、衝突を起します。“昨シーズンまで出来ていたからカタチを  
変えたくない” “いきなり新しいことを強制されてもわからない” 選手たちの  
意見です。かと言って、新たなステージに立つとき、新たな風は必要です。

結果を出さなければ明日はないですから・・・。」

プロチームならではの悩みを抱えているようです。

成功していた経験を大切にす一方、新たな挑戦を踏み出せない気持ちは、  
プロであって同じ悩みのようなものです。

「文化の違いで、伝わり方も違うようです。歩み寄って伝えたいつもりが、強制され  
ていると受け取ってしまうことも多々あります。

しかし、選手たちの受け取り方が変わるとポジションのように吸収し、魅力的に変化  
するのです。選手もコーチスタッフもストレスは感じますが、『新たな風の取り入  
れ方』が大事なのです。」そう話していただきました。

海外の育成世代・ジュニア世代も指導したことがあるコーチは、少年時代は特にい  
ろいろな経験と刺激を与えるべきだと教えていただきました。

指導者として、選手にいい刺激のあるトレーニングをできるか、  
今一度頭を悩ませる必要があると感じさせられました。

U9コーチ 藤井 雅

